

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	平成30年度 第2回さいたま市スポーツ振興審議会
2 会議の開催日時	平成31年3月12日(火) 14時00分から15時00分まで
3 会議の開催場所	さいたま市役所議会棟2階 第7委員会室
4 出席者名	<p>【委員】 浅見 茂、兵藤 明子、岩男 光子、村田 正二、神保 久美子、鈴木 花子、武田 弓佳、生島 エミ子、有川 秀之、石崎 聡之、小嶋理恵子、松本 宏、小林 利成、安東 さやか(計14名)</p> <p>【さいたま市スポーツアドバイザー】 伊藤 博義</p> <p>【事務局】 蓬田スポーツ文化局長、大沢スポーツ部長、星野スポーツ部参事兼スポーツ振興課長、高橋スポーツ政策室長、石塚スポーツイベント課長、(スポーツ振興課)石川課長補佐兼スポーツ振興係長、増永スポーツ施設係長(スポーツ政策室)新倉主査、高山主任、松本主任(以上10名)</p>
5 欠席者名	<p>【委員】 木立 幹子、齋木 薫、野崎 直良、山下 誠二、保高 智(計5名)</p>
6 議題及び公開又は非公開の別	<p>【議題】</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針の進捗について</p> <p>② 「第4回さいたま国際マラソン」の開催結果について</p> <p>(2) 意見聴取</p> <p>①各スポーツ団体に対する補助金について 公開</p>

7 非公開の理由	
8 傍聴者の数	0人
9 審議した内容	上記6 議題のとおり
10 問合せ先	スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ政策室 電話番号 048-829-1737
11 その他	

平成30年度 第2回さいたま市スポーツ振興審議会会議録

1 日時 平成31年3月12日(火) 14時00分から15時00分

2 場所 さいたま市役所議会棟2階 第7委員会室

3 出席者

(1) 委員 (14名)

浅見 茂、兵藤 明子、岩男 光子、村田 正二、神保 久美子、鈴木 花子、
武田 弓佳、生島 エミ子、有川 秀之、石崎 聡之、小嶋 理恵子、松本 宏、
小林 利成、安東 さやか

(2) スポーツアドバイザー (1名)

伊藤 博義

(3) 事務局 (10名)

蓬田スポーツ文化局長、大沢スポーツ部長、星野スポーツ部参事兼
スポーツ振興課長、高橋スポーツ政策室長、石塚スポーツ
イベント課長、

(スポーツ振興課) 石川課長補佐兼スポーツ振興係長、増永スポーツ施設係長
(スポーツ政策室) 新倉主査、高山主任、松本主任

4 欠席者

(1) 委員 (5名)

木立 幹子、齋木 薫、野崎 直良、山下 誠二、保高 智

(敬称略)

5 傍聴人 0名

6 公開又は非公開の別 公開

7 問い合わせ先

さいたま市 スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ政策室

〒330-9588 さいたま市常盤6-4-4

TEL 048-829-1737 FAX 048-829-1996

8 内容

(1) 開会

委員19名中14名の出席により、会議が成立。

(2) 委員辞任

佐伯委員が一身上の都合により辞任したことを報告。

(3) 議事

○各所管課長及び職員より、下記報告事項及び意見聴取事項を資料に沿って説明。

(報告事項)

- ① さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針の進捗について(資料 1、1-2)
- ② 「第4回さいたま国際マラソン」の開催概要について(資料 2)

(意見聴取)

- ① 各スポーツ団体に対する補助金について(資料 3)

(4) その他

3月以降の市内で開催される下記イベントの紹介

- ・第7回スポーツツーリズム・コンベンション in さいたま(3/19, 20)
- ・第7回さいたまマーチ ～見沼ツデーウオーク～(3/30, 31)
- ・さいたまスポーツフェスティバル 2019(5/11, 12)

(5) 質疑・応答

◇意見聴取①各スポーツ団体に対する補助金について

(生島委員)

総合型地域スポーツクラブには予算はつかないのか。

(スポーツ振興課長補佐)

総合型地域スポーツクラブに対して、運営支援という目的での補助金の支出の予算化はしていない。

(村田委員)

スポーツ推進委員連絡協議会は6万円弱の減額であるが、予算の使用状況を精査しての結果なのか。

5月に総会を開催し、各支部にお金が出るのが6月となり、4、5月に使えるお金がないため、支部長が立て替えているという状況があり、減額は厳しい。昨年の予算額に戻してほしい。

(スポーツ振興課長補佐)

各スポーツ団体が厳しい財政状況の中、活動していることは認識している。繰越金の項目を見ると、平成27年度の24万円から平成29年度で45万円となっている。平成27年度の包括外部監査において、「同額交付はせず、財務内容を検討し、金額を決定することが必要であると考え」という意見があり、その点も考慮して、補助金額を決定した。

体育協会への増額分はスポーツ振興基金という特定財源を充てての事業としている。

補助金の減額分については、スポーツ振興全体の中で他の事業に活用する予定であり、御理解いただきたい。

(スポーツ文化局長)

スポーツ振興をさらに発展させていく立場として、補助金が大切であることは認識している。

来年度の補助金の金額は、議会の議決を得ているので変更はできないが、金額が固定というわけではないので、来年度以降、団体の状況を聞きながら検討していく。

市全体として、スポーツ分野に限らず、補助金に対する考え方は厳しい現状がある。

(村田委員)

補助金交付団体に対して、予算要求前に事情聴取してほしい。

(スポーツ文化局長)

要望通りになるかは分からないが、今後は意見を聞きながら進めていきたい。

(有川委員)

予算は4月から使えないのか。

(スポーツ振興課長補佐)

単年度会計ということで、基本的に総会を経て、事業計画、収支予算が決まるため、4月当初から使えないというのが実情である。

(有川委員)

4月から使える手立てを考えてほしい。

(村田委員)

4月当初に前払金として、いくらか交付してもらえると、すぐに活動ができる。補助金が交付される前に、支出が必要な場合、収入が0なので支出ができない(監査で認められない)ため、誰かが立て替えなければならない。

(スポーツ文化局長)

手立てがあれば、制度的に問題なければ実施したい。手続上の問題かと思われるので研究する。

(鈴木委員)

レクリエーション協会はお金をかけずに活動しているので問題ない。交付方法は事務局と団体でしっかり協議してほしい。

◇その他：3月以降の市内で開催されるイベントの紹介について

(安東委員)

さいたまスポーツフェスティバルについて、パラリンピックの競技は体験する機会が少ないと思うが、2020年度以降も子供たちに体験させる機会を計画・検討しているのか。

(スポーツ政策室長)

子供たち向けに限定した具体的な計画は現時点で把握はしていないが、パラリンピック競技の体験機会は今後も増えていくと考えている。オリンピック・パラリンピックが終わるからと言ってそういった機会が無くなるわけではなく、パラリンピック競技については、市全体で進めていく。

以上

平成30年度第2回さいたま市スポーツ振興審議会

次 第

平成31年3月12日（火）14時～
議会棟2階第7委員会室

1 開 会

2 議 事

(報告事項)

- ① さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針の進捗について
- ② 「第4回さいたま国際マラソン」の開催結果について

(意見聴取)

- ① 各スポーツ団体に対する補助金について

3 そ の 他

4 閉 会

《 配布資料 》

- ・次第
- ・席次表
- ・さいたま市スポーツ振興審議会委員名簿
- ・さいたま市スポーツ振興審議会条例
- ・資料1 さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針の進捗について
- ・資料1-2 スポーツシュレー構想について
- ・資料2 「第4回さいたま国際マラソン」の開催結果について
- ・資料3 各スポーツ団体に対する補助金について

平成30年度第2回さいたま市スポーツ振興審議会 席次表

議長 さいたま市スポーツ少年団 本部長
兵藤 明子 委員



(公財)さいたま市体育協会 副会長
浅見 茂 委員

さいたま市スポーツ少年団 本部長
岩男 光子 委員

さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会
常任理事
村田 正二 委員

さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会
常任理事
神保 久美子 委員

さいたま市レクリエーション協会 副会長
鈴木 花子 委員

さいたま市レクリエーション協会 副理事長
武田 弓佳 委員

さいたま市総合型地域スポーツクラブ
南区地域スポーツクラブ代表
生島 エミ子 委員

埼玉大学 教育学部 教授
有川 秀之 委員

芝浦工業大学 工学部 准教授
石崎 聡之 委員

(公財)日本栄養士会・(公財)日本体育協会
認定
公認スポーツ栄養士 管理栄養士
小嶋 理恵子 委員

(株)テレビ埼玉 スポーツ局長
松本 宏 委員

新都心小林クリニック 院長
小林 利成 委員

学識者
安東 さやか 委員

さいたま市スポーツアドバイザー
伊藤 博義 アドバイザー

事務局



● スポーツイベント課
石塚 課長

● スポーツ政策室
高橋 室長

● スポーツ文化局
大沢 部長

● スポーツ文化局
蓬田 局長

● スポーツ振興課
星野 課長



● スポーツ政策室
松本 主任

● スポーツ政策室
高山 主任

● スポーツ政策室
新倉 主査

● スポーツ振興課
石川 課長補佐

● スポーツ振興課
増永 係長

出入口

● ● ● ● ● 傍聴席

さいたま市スポーツ振興審議会 委員名簿 H29. 7. 28～H31. 7. 27

	氏 名	所 属
1	アサミ シングル 浅見 茂	公益財団法人さいたま市体育協会 副会長
2	キダチ ミキコ 木立 幹子	公益財団法人さいたま市体育協会 評議員
3	ヒョウドウ アキコ 兵藤 明子	さいたま市スポーツ少年団 本部長
4	イワオ ミツコ 岩男 光子	さいたま市スポーツ少年団 本部員
5	ムラタ マサジ 村田 正二	さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会 常任理事
6	ジンボ クミコ 神保 久美子	さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会 常任理事
7	スズキ ハナコ 鈴木 花子	さいたま市レクリエーション協会 副会長
8	タケダ ユミカ 武田 弓佳	さいたま市レクリエーション協会 副理事長
9	イクシマ エミ子 生島 エミ子	さいたま市総合型地域スポーツクラブ「南区地域スポーツクラブ」代表
10	アリカワ ヒデユキ 有川 秀之	埼玉大学 教育学部 教授
11	イシザキ サトシ 石崎 聡之	芝浦工業大学 工学部 准教授
12	サイキ カオル 齋木 薫	公益財団法人健康・体力づくり事業団認定 健康運動指導士
13	コジマ リエコ 小嶋 理恵子	公益財団法人日本栄養士会・公益財団法人日本体育協会認定 公認スポーツ栄養士 管理栄養士
14	マツモト ヒロシ 松本 宏	株式会社テレビ埼玉 スポーツ局長
15	コバヤシ トシナリ 小林 利成	新都心小林クリニック 院長
16	ノザキ ナオヨシ 野崎 直良	学識者
17	アンドウ さやか 安東 さやか	学識者
18	ヤマシタ セイジ 山下 誠二	さいたま市中学校体育連盟 顧問（支部長）
19	ホダカ サトシ 保高 智	さいたま市小学校体育連盟 副会長

○さいたま市スポーツ振興審議会条例

平成13年5月1日

条例第134号

改正 平成22年3月25日条例第10号

平成23年12月27日条例第53号

平成27年3月12日条例第1号

平成29年3月29日条例第31号

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号。以下「法」という。）第31条の規定に基づき、さいたま市スポーツ振興審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

（一部改正〔平成22年条例53号〕）

(任務)

第2条 審議会は、法第31条及び第35条に規定するもののほか、市長の諮問に応じて本市のスポーツの振興に関する次に掲げる事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して市長に建議する。

- (1) スポーツの施設及び設備の整備に関すること。
- (2) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (3) スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。
- (4) スポーツの団体の育成に関すること。
- (5) スポーツによる事故の防止に関すること。
- (6) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの振興に関すること。

（一部改正〔平成22年条例10号・23年53号〕）

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、特別の事項を調査審議するため必要があると認めるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

(委員)

第4条 審議会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体の代表者

(3) 公募による市民

2 委員に欠員が生じたときは、補欠委員を委嘱し、又は任命する。

(一部改正〔平成22年条例10号・23年53号・29年31号〕)

(任期)

第5条 審議会の委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時委員の任期は、前項の規定にかかわらず、特別の事項に関する調査審議が終了するまでとする。

3 審議会の委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第6条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 審議会の会議は、会長が必要と認めるときに招集し、会長が議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、スポーツ文化局において処理する。

(一部改正〔平成22年条例10号・27年1号〕)

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(一部改正〔平成22年条例10号〕)

附 則

この条例は、平成13年5月1日から施行する。

附 則 (平成22年3月25日条例第10号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

(さいたま市スポーツ振興審議会条例の一部改正に伴う経過措置)

3 この条例の施行の際現に従前のさいたま市スポーツ振興審議会委員である者は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）に、前項の規定による改正後のさいたま市スポーツ振興審議会条例第4条第1項の規定により委員として任命されたものとみなす。この場合において、その委員として任命されたものとみなされる者の任期は、同条例第5条第1項の規定にかかわらず、平成23年7月27日までとする。

附 則（平成23年12月27日条例第53号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成27年3月12日条例第1号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月29日条例第31号）

この条例は、平成29年7月28日から施行する。

さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針の進捗について

1 検討の方向性における進捗状況について

(1) 地域のスポーツ環境の整備について

- ① 身近な場所でスポーツができる場として、市有未利用地等を活用した多目的広場を、平成29年度、緑区に1カ所設置し29年度末までに16カ所を整備しました。
また、30年度に岩槻区に設置する多目的広場の測量設計業務を行い、31年度に整備を行います。
- ② 東京 2020 大会への機運醸成を図るため、市民が気軽にバスケットボールを楽しむことができるバスケットコート平成30年度中に1カ所整備するとともに、平成31年度に2カ所整備するための設計業務を行います。
- ③ 「地域のスポーツ環境の整備」と「新たな交流を創出するスポーツ拠点の整備」の具体化に向け、さいたま市の中長期的なスポーツ施設の在り方を定めるスポーツ施設の整備計画を31年度中に策定するため、30年度に「さいたま市スポーツ施設の整備・運営に関する指針推進会議」を開催しました。

(2) 新たな交流を創出するスポーツ拠点の整備について

- ① 平成30年度末に、さいたまスポーツシューレ整備事業を開始します。

スポーツシューレ構想について

■さいたま市のスポーツシューレとは

さいたま市では、「シューレ」を“学びの場”と捉え、まずは、このうちのソフト面に注目した新たな「学び」の機会を、提供する仕組みを整備し、充実していきます。

また、これを支えるスポーツ施設や宿泊・飲食・研修等の施設は、当面、市域内にある公民+学が保有する既存施設を活用することで、事業推進に掛かる経費やリスクを抑制しつつ、柔軟かつスピード感のある施策展開を図っていきます。

■ネットワーク型シューレのイメージと運営母体



◎ハード 民間競技施設や大学、それらを結ぶ交通事業者等との連携によるスポーツをする場・学ぶ場の拡充

◎ソフト 情報技術関連企業や健康関連企業、スポーツ事業者等との連携による最新の知見や技術を活用したサービス（学びの場等）の提供

スポーツシューレとして新たに必要とする機能

- ・スポーツ団体、民間事業者、大学、行政等をつなぐコンシェルジュ機能
- ・スポーツ大会やイベント、講習会等を、企画・調整・開催する機能

運営母体＝さいたまスポーツコミッション（SSC）

これまで約 250 件の大会等の誘致を実現した実績を持ち、法人化により強化されるコンシェルジュ能力や、企画・運営能力を有し、市が関与する組織である SSC としたい

●取組の方向性

民間（企業・大学・団体等）の力を、最大限に活用することにより、市ではできない新たな取組を、柔軟かつ効率的、合理的に実施

●さいたまスポーツシューレにおける取組事例（案）

市域内のスポーツ施設や宿泊・飲食・研修施設等のネットワーク化により実施環境（ハード面）を確保し、連携する企業や大学、団体等が持つ最新の知見や技術（ソフト面）を提供していきます

1. スポーツ人材の育成（学びの場の提供）

- ・子どもたちの「体」、「技術」、「精神」を育てるスポーツ講座の実施等
- ・センシング技術（センサー（感知器）などを使用してさまざまな情報を計測・数値化する技術）やデータ解析等、新技術を活用した個人やチームの競技力向上
- ・データと理論に基づいて子どもたちを指導する指導者やトレーナー等の育成

2. 持続可能なスポーツ環境の維持・発展

- ・民間施設を活用した、学びの要素を付加したスポーツ大会や合宿の誘致
- ・民間施設や大学施設を活用した、市民がスポーツを学ぶ場の提供
- ・民間力を最大限に活用したスポーツ施設、スポーツ環境の整備

3. スポーツビジネス・スポーツ産業の創出・活性化

- ・最新の AI や IoT などの情報技術を活かした、ソフトやハードの研究開発
- ・スポーツ観戦の新たな付加価値の創造など、ビジネスや産業等の創出支援
- ・経済局と連携したスポーツ産業の誘致支援、市内企業との連携支援

■構築・活用スケジュール（案）

年度	取組内容
平成30年度	シューレを支えるハード・ソフトの連携先開拓、ネットワーク化に向けた企業・大学等との協定、新たな学びの機会の創出と事業化 大会・合宿等の誘致（1件）
平成31年度	大会・合宿等の誘致（3件）、スポーツ人材の育成事業の開始、 ビジネスコンソーシアムの形成
平成32年度	大会・合宿等の誘致（3件）、 ビジネスコンソーシアムから新たな連携事業の創出

第4回さいたま国際マラソン開催結果について



1 開催状況

(1) 申込者数・出走者数・完走者数・完走率

① 12月8日(土)【ランニングイベント駒場ファンラン】

部門	参加資格	定員	申込者数	出走者数	完走者数	完走率
車いすの部 (1km)	車いすを常用する 小学生以上の男女	30人	26人	24人	24人	100.0%
親子ランの部 (1.5km)	小学生と保護者の2人1組	1,000組 (2,000人)	813組 (1,626人)	696組 (1,392人)	696組 (1,392人)	100.0%
1.5kmの部	小学4年生～中学生の男女	600人	344人	288人	288人	100.0%
2時間チームランの部 (1.2km)	小学生以上の男女2～6人で 構成されたチーム ※小学生のみのチームは6～11人で構成	200組 (2～11人 1組)	159組 (848人)	155組 (826人)	155組 (826人)	100.0%

② 12月9日(日)

部門	参加資格	定員	申込者数	出走者数	完走者数	完走率
代表チャレンジャーの部 (フルマラソン)	招待選手、日本陸連登録の 女性競技者など	—	221人	193人	188人	97.4%
代表チャレンジャーの部 ペースメーカー	—	—	4人	3人	0人	0%
フルマラソン一般の部 (男女)	19歳以上で6時間以内に 完走できる男女	16,000人	15,681人	13,654人	12,879人	94.3%
フルマラソン 女子ビギナーの部	19歳以上で5時間台の 完走を目指す女性競技者		530人	450人	360人	80.0%
8kmの部	15歳以上(中学生を除く)で 70分以内に完走できる男女	1,500人	1,680人	1,456人	1,442人	99.0%
計		—	20,960人	18,286人	17,399人	95.1%

(2) フルマラソン入賞者

①代表チャレンジャーの部

順位	氏名	国名・所属	記録
1	ダリラ・ゴサ	バーレーン	2:25:35
2	シタヤ・ハブテゲブレル	バーレーン	2:25:39
3	シルビア・キベト	ケニア	2:28:38
4	今田 麻里絵	岩谷産業	2:29:35
5	清田 真央	スズキ浜松AC	2:31:07
6	床呂 沙紀	京セラ女子陸上競技部	2:32:11
7	下門 美春	埼玉陸協	2:34:21
8	吉富 博子	メモリード	2:34:47



代表チャレンジャーの部スタート

②フルマラソン一般の部

【男子】

順位	氏名	都道府県	記録
1	井上 直紀	東京都	2:20:03
2	川内 鮮輝	埼玉県	2:22:56
3	齋藤 拓也	東京都	2:26:12
4	井下 裕貴	埼玉県	2:27:07
5	千葉 優	埼玉県	2:27:37
6	藤原 拓	埼玉県	2:27:43
7	坂口 広大	神奈川県	2:29:06
8	池田 大樹	埼玉県	2:29:33

【女子】

順位	氏名	都道府県	記録
1	澤島 朋美	埼玉県	2:35:58
2	筒本 恭実	広島県	2:53:02
3	安曇 樹香	埼玉県	2:58:16
4	西川 ヒカル	東京都	2:58:48
5	與口 亜紀子	埼玉県	3:01:20
6	Mok ChiLing		3:01:22
7	山鹿 由莉	埼玉県	3:01:26
8	弓削田 真理子	埼玉県	3:03:04

親子ランの部フィニッシュ
【駒場ファンラン】

(3) ランナー応援隊

名称	距離	場所	出演団体	実施主体
大宮区ランナー応援隊①	1.8 km	南大通り 食肉中央卸売市場	・あづま太鼓 ・北袋鼓友組	大宮区役所
大宮区ランナー応援隊②	2.6 km	旧中山道 大宮ほこすぎ橋下	・プロコ大宮（サンバ） ・大宮南中学校	大宮区役所
浦和区ランナー応援隊①	7.2 km	産業道路 ファミリーマート浦和駒場店	・木崎中学校吹奏楽部	浦和区役所
浦和区ランナー応援隊②	7.4 km	駒場運動公園	・本太お囃子連	大会直営
浦和大学ランナー応援隊	12.4 km	R463号バイパス 浦和大学・浦和大学短期大学部前	・エイサー	浦和大学 浦和大学短期大学部
越谷市ランナー応援隊	24.0 km	R463号バイパス ファミリーマート越谷南荻島店	・越谷龍虎太鼓 ・よさこい踊り	越谷市
岩槻区ランナー応援隊	26.6 km	R463号バイパス ファミリーマート浦和美園南店	・やまぶき道灌太鼓	岩槻区役所
緑区ランナー応援隊	35.0 km	R463号バイパス ファミリーマートさいたま原山二丁目店	・浦和見沼太鼓	緑区役所
浦和区ランナー応援隊③	37.4 km	国道17号 埼玉りそな銀行さいたま営業部前	・バルーン応援隊	大会直営
中央区ランナー応援隊	39.9 km	与野中央通り 与野中央公園	・与野鴻沼太鼓 ・与野東中学校吹奏楽部	中央区役所



旧中山道 北浦和駅付近
【フルマソン・8 kmの部】



埼玉スタジアム2002付近
【フルマソン】



岩槻区ランナー応援隊
（やまぶき道灌太鼓）

2 関連イベント

(1) 高校新聞部による新聞記者体験

実施日： 2018年12月7日（金）～9日（日）※大会取材

参加者： 川越東高等学校新聞文芸部 12人

内容： 大会を取材する記者と同じ立場で取材を体験し、新聞を作成した。
作成した新聞は読売新聞社の記者による講評を行い、大会公式Webサイト等で紹介した。

(2) バックヤードツアー

実施日： 2018年12月8日（土）

場所： さいたまスーパーアリーナ及びさいたま新都心けやきひろば

参加者： さいたま市立与野本町小学校児童及び保護者 20人

内容： 大会前日に準備作業が進むテレビ中継車、記者会見場、及びけやきひろばで行なわれたトークショー等を見学した。

(3) エスコートキッズプログラム

日時： 2018年12月9日（日）

場所： さいたまスーパーアリーナ

参加者： 浦和ジュニアアスレチッククラブ 5人

大宮KIDSアスレチッククラブ 5人

岩槻アスレチッククラブ 5人 計15人

内容： 「代表チャレンジャーの部」スタートに先立ち、国内外の招待選手をスタートラインまでエスコートした。



エスコートキッズプログラム



川越東高等学校新聞文芸部が作成した新聞

3 コラボイベント「埼玉うまいもの市場」

(1) 日時 12月8日（土） 11時 ～ 18時30分

12月9日（日） 9時 ～ 18時30分

(2) 会場 さいたま新都心けやきひろば

(3) 出店数 35団体31ブース

(4) ステージ 13コンテンツ（パブリックビューイング及び表彰式を含む）



コラボイベント「埼玉うまいもの市場」

4 ボランティア

- (1) 参加人数 5,620人
- (2) 活動内容 給水・給食、コース整理、距離表示、記念品配付、完走証発行、救護等
- (3) 活動日 12月8日(土) 駒場ファンラン
12月9日(日) フルマラソン、8km

(4) 主な協力団体

① 市内スポーツ団体

(体育協会加盟団体、スポーツ少年団、レクリエーション協会加盟団体、スポーツ推進委員連絡協議会、総合型地域スポーツクラブ等)

② 市内交通関係団体 (交通安全保護者の会 (母の会))

③ 大学・高校・各種学校

④ 市内企業

5 観客・来場者数

- (1) コース沿道 約36万人
- (2) 駒場ファンラン 約6.5千人 (参加者を含む)
- (3) けやきひろば 約9.1万人 (土日2日間)

6 視聴率

日本テレビ (地上波) 生中継

8.4% (関東地区・世帯平均)

7 経済波及効果等

- (1) 経済波及効果 約36.8億円 (速報値)
- (2) 広告換算値 約3.4億円 (速報値)



給水所で活動するボランティア



車いすの部
【駒場ファンラン】



1.5kmの部
【駒場ファンラン】

各スポーツ団体に対する補助金について

区 分	予算額 (円)	
	平成30年度	平成31年度
公益財団法人さいたま市体育協会 (平成31年4月1日から公益財団法人さいたま市スポーツ協会に名称変更)	44,989,000	45,489,000
さいたま市レクリエーション協会	3,000,000	2,950,000
さいたま市スポーツ推進委員連絡協議会	2,859,250	2,800,000
そ の 他	13,235,000	13,235,000
合 計	64,083,250	64,474,000